



# HENNGE One

Tadrill 活用資料

HENNGE株式会社 Customer Success Division



# はじめに

本資料の内容は、2026年2月時点の動作をもとに作成したものであり、今後予告なく変更される場合があります。

# 期待される成果

# 期待される成果

## 感染の予防

### 不審なメールを 見極める力の向上

- 様々な難易度の訓練を実施し、不審なメールを見極めるための知識を拡充する
- 何度も繰り返し訓練を行うことで、その場限りの対応力を鍛えるのではなく、不審なメールへの危機意識を日常化させる

## 感染の拡大防止

### 不審なメール受信時の 対応力の向上

- 不審なメール受信時の行動を定着化させる

#### 社員

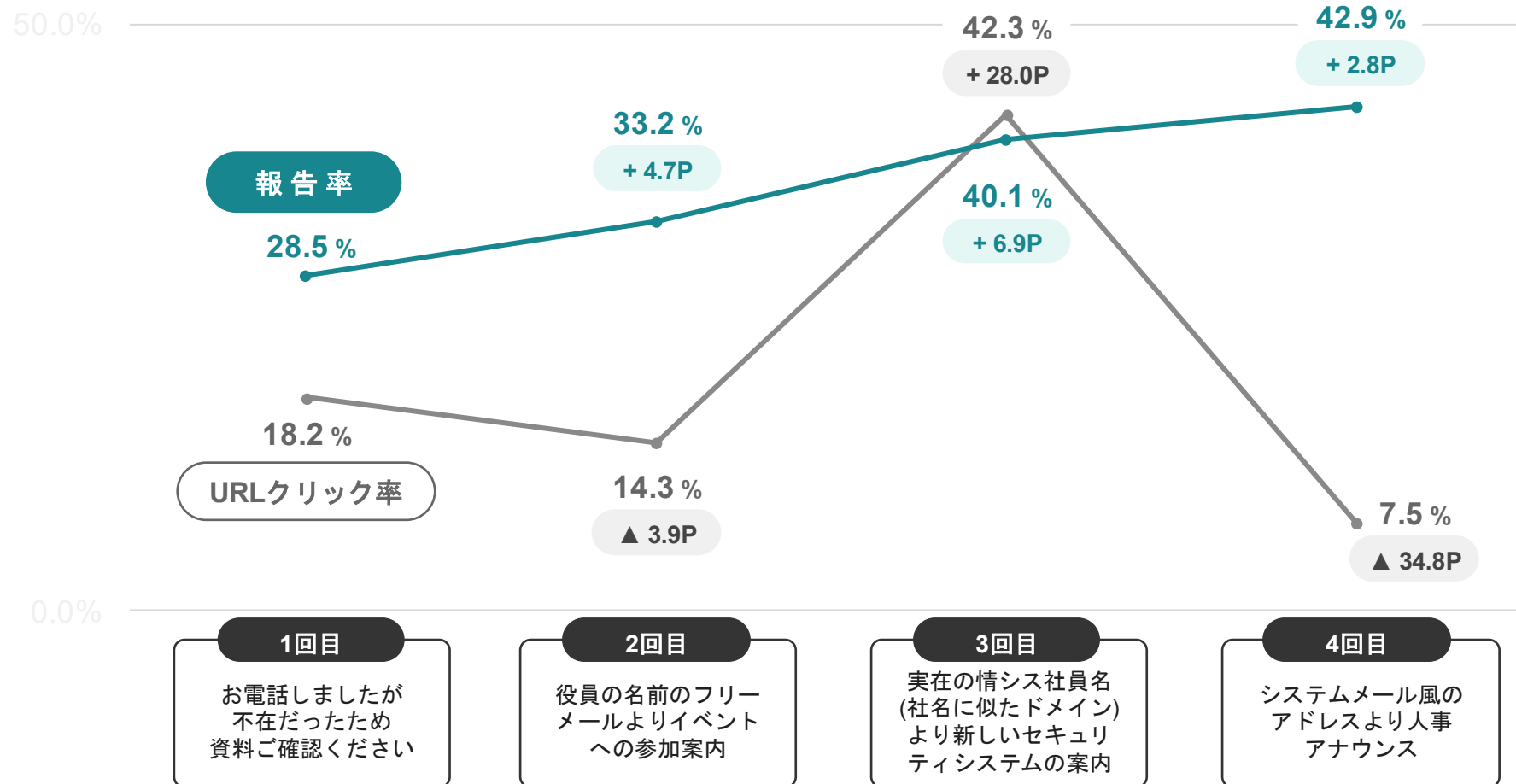
- ・ 怪しいメールが届いた際に報告すること
- ・ 万が一 URL のクリックやファイルを開封してしまった場合にも迅速に報告をすること

#### 管理者

- ・ 報告を受け取るフローを整備し、そのフローに則って対応すること

# 訓練結果の遷移 (イメージ)

URL クリック率はメールパターンにより上下するものの、報告率は訓練の回数に応じて上昇傾向を示すことが期待される。



# 訓練の流れ

# 訓練の流れ

## 1. 設計

訓練実施日時やメール文面の検討、目標の設定など、訓練の設計を行う。

## 2. 実施

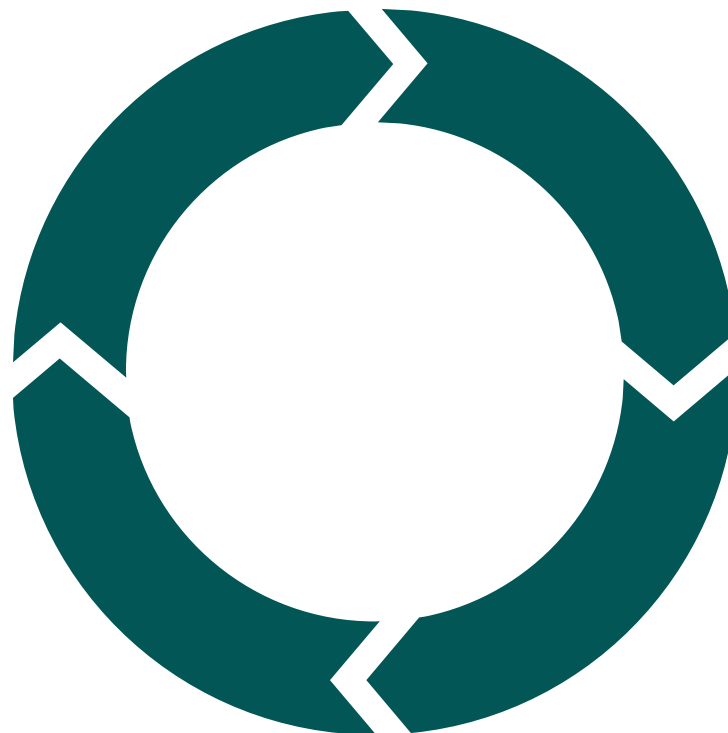
訓練メールの送信を行う。

## 3. 振り返り

訓練結果の確認をし、ユーザーごとのクリック有無、報告有無の把握と、目標との照らし合わせを行う。

## 4. フォロー

ユーザーへの訓練メールの見破りポイントの周知など、訓練結果を受けたフォローアクション、次回訓練の検討を行う。



# 訓練設計のポイント

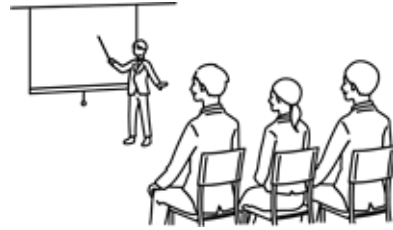
# 訓練設計時の検討項目

検討項目	内容
時期	訓練をいつからいつまで実施するか
目的	訓練を実施する目的（報告機能の周知、社員のセキュリティ意識の確認など）
周知方針	事前周知あり / 事前周知なし / 標的型攻撃の注意喚起のみ
配信方法	一斉 / ランダム / 即時
対象者	全員 / 一部社員（部署ごと、入社年次、役職ごとなど）
種類	URLリンク型 / ファイルダウンロードリンク型 / 添付ファイル型
メール内容	難易度、テーマ、送信者
クリック・開封率（目標）	リンク型のクリック率やファイル型の開封率の目標値。平均は10～20%程度。
報告率（目標）	報告率の目標値。平均は20～30%程度。
訓練後のフォロー体制	社員への訓練実施の報告や、クリック・開封した社員への再訓練の実施有無など

# 訓練設計のポイント

ポイント	内容
① 周知方針	訓練対象者に事前に訓練実施のアナウンスするかどうか
② メール設計	<ul style="list-style-type: none"><li>送信者アドレス / 表示名</li><li>タイトル / 本文</li><li>難易度</li></ul>
③ 集計期間	集計対象期間
④ 配信方法	一斉送信 / ランダム送信

# 訓練設計のポイント - ①周知方針



パターン	事前にアナウンス	不審メールへの対応啓蒙	周知なしの実践的な訓練
オススの使い方	初回訓練	初回訓練 / 2回目以降	2回目以降
メリット	エンドユーザー側の混乱（問い合わせなど）を最小限にできる	啓蒙によりユーザーの意識が高まっている中で訓練を実施することで、啓蒙の浸透度合いが図りやすい	実践的な訓練が可能で組織/ユーザーの実情や対応状況が明らかにできる。その後の対応が打ちやすい。
デメリット	事前に周知するため、実践的な訓練は難しい	訓練自体の周知はしないため、混乱する可能性あり	エンドユーザーが混乱する可能性あり
伝え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓練の目的を伝える</li> <li>・ アドオンの使い方を周知</li> <li>・ 予定時期の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 不審メールの注意喚起をする</li> <li>・ 不審メール受信時の対応やアドオンの使い方を周知</li> </ul>	-

## Tadrill を使った報告機能の周知メール配信（例）

Tadrill Alert（報告機能）の周知を、Tadrillを使用して模擬訓練的に行うことで、ユーザーが周知通りに報告を行ったかを確認することが可能です。

件名	【訓練メール】Tadrill で報告してください
本文	<p>各位</p> <p>@@@このメールは訓練メールです。@@@</p> <p>【MM月DD日(△曜日)HH時】までに手順通り、本メールを報告してください。</p> <p>報告手順については、以下のページを確認してください。</p> <p>[マニュアルのURL]</p> <p>なお、こちらは送信専用のアドレスのため、返信いただいても対応できません。 不明な点がある場合は、〇〇まで問い合わせしてください。</p> <p>お手数ですが、ご協力のほどよろしくお願いいたします。</p>

# 訓練設計のポイント - ②メール設計

## 1

### 送信者・表示名

- 実在の企業等にユーザーから問い合わせが行われないように、架空の企業や団体、個人を装ったメールアドレスや表示名にする

## 2

### タイトル・本文

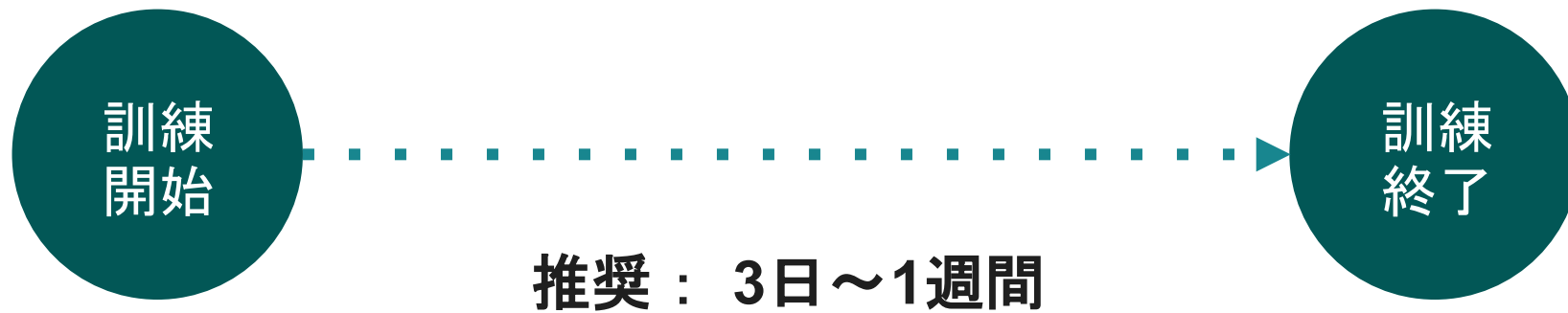
- メールを開かせて報告させることを目的とするため、メールの開封を誘発する件名がよい
- 時期ごとのイベントに合わせた内容にするとクリックを誘発しやすい（確定申告やボーナスなど）
- どこで見破るべきかを想定し、見破りポイントを準備しておく

## 3

### 難易度

- ユーザーハレーションが起きないように高度な偽装をしすぎないほうがよい
- 難易度の低いものは「不審なメールを見極める意識が定着しているか」、高いものは「クリックしてしまっても報告する意識が定着しているか」の確認がとれるため、訓練実施の目的に応じて難易度を設定するとよい

## 訓練設計のポイント - ③ 集計期間



※Tadrill でのトレーニング作成時に、[トレーニング終了日付] に設定した期間までに実施されたリンククリックや報告のアクションが記録対象となります。

# 訓練設計のポイント - ④ 配信方法

## 一斉配信

### メリット

- 短期間で訓練を実施できる

### デメリット

- 隣席同士などユーザー同士でネタバレをする可能性がある

### 利用シーン

- 勤務場所が点在している場合
- 訓練実施状況を迅速に把握したい場合
- 報告機能を周知したい場合

## ランダム配信

- ユーザーごとに異なるタイミングで届くため、訓練メールだと気づかれにくい

- 早い段階で訓練メールを受け取ったユーザーがネタバレをする可能性がある

- 訓練メールであるとユーザーに気付かれる可能性を極力下げたい場合

## 訓練メールの送信検証

# 訓練メールの送信検証

訓練メールの送信においては、管理者様など数名の方に向けて事前に送信検証を行っていただくことを推奨いたします。

訓練メールの送信検証においては、以下のポイントをご確認ください。

- 訓練メールが迷惑メールフォルダに振り分けられることなく受信ボックスに届く
- 訓練メールの文面中に設定したユーザー属性のタグやリンク等が意図通りに反映されている
- 訓練メール内にリンクが含まれる場合、リンクをクリックすると種明かしページが表示される
- リンクをクリックや添付ファイルの開封の記録が Tadrill の管理画面上から確認できる
- 訓練メールを報告した記録がメールが Tadrill の管理画面上から確認できる

## 訓練実施後の振り返りポイント

## 振り返りポイント - 不審なメールを見極める力の定着度合いを確認する

### ポイント

- ✓ 前回の訓練から大きく期間を開けずに実施ができたか（3～5ヶ月内）
- ✓ クリッククリック率やファイル開封率は目標値をクリアしているか
- ✓ 訓練メール内に見破りポイントを設定できていたか
- ✓ 訓練で「引っかかってしまった」ユーザーに見破りポイントの周知や再発防止に繋がる教育ができているか
- ✓ 訓練で「引っかからなかった」ユーザーが見破りポイントを認知しているか把握できているか

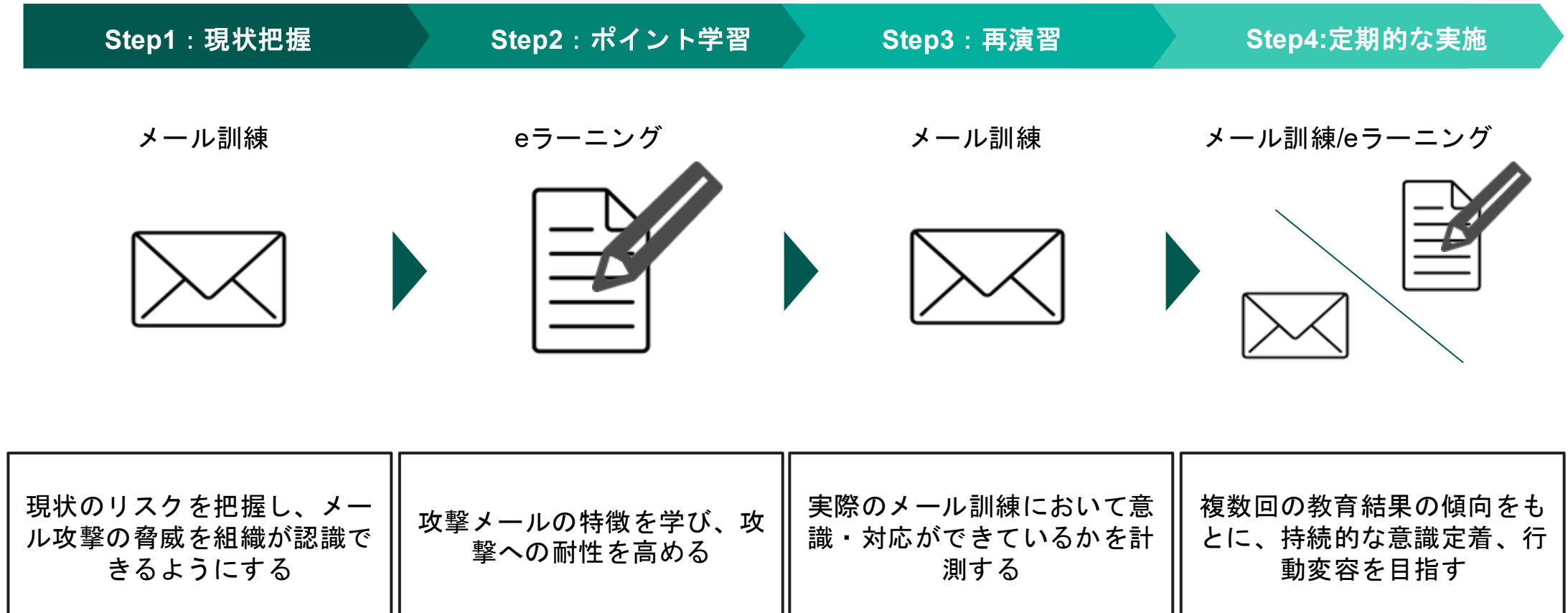
## 振り返りポイント - 不審なメールへの対応力の定着度合いを確認する

### ポイント

- ✓ 報告率は目標値をクリアしているか
- ✓ 不審なメールを報告するフローが整備されており、それに則って訓練メールの報告がされているか
- ✓ 不審なメールの受信報告を受けた後のフローは決まっているか
- ✓ 不審なメールのリンククリック、ファイル開封の報告を受けた後のフローは決まっているか
- ✓ リンククリック、ファイル開封を行ったのに報告ができていない人への報告の啓蒙ができているか
- ✓ 報告が重要であることの理由や背景をユーザーに周知できているか

# 定着度合いを高めるために

eラーニング機能を組み合わせて、インプットとアウトプット学習によるさらなる定着を目指せます



## Appendix : HENNGE ACADEMYのご紹介

HENNGEでは基礎から最新トレンドまで「気軽に、常にキャッチアップ」できる学びの場を提供しています。  
動画、資料コンテンツなどを通して様々なIT・セキュリティを学ぶことができます。

The logo for HENNGE ACADEMY features the word "HENNGE" in a large, bold, black sans-serif font. Below it, the word "ACADEMY" is written in a smaller, black sans-serif font, with a black right-pointing triangle replacing the letter "A".

Tadrillと組み合わせることで、  
コンテンツのご用意がなくても訓練→教育が可能に！

コンテンツ例：

- ・被害を防ぐ「報告」という最強の防御策
- ・メール攻撃を防ぐ5つのポイント
- ・ランサムウェアの脅威と対策
- ・Webブラウザ利用時の脅威（偽サイト・サポート詐欺）
- ・ビジネスメール詐欺（BEC詐欺）とは

※内容は変更する場合がございます。  
※HENNGE ACADEMYは予告なく終了する場合がございます。

サイトURL：<https://hennge.com/jp/service/one/academy/>

end